

# トライアル・マツキー牧原が語る「関西の実情」

規制緩和と共に、新たに最低地上高などの規定が示された。関西方面では以前から独自の最低地上高が決まっていたが…全国統一の見解になったか？ マツキーさんが確かめてきた。



## パーフェクトインプレッサは合法？ 大阪陸軍に聞きに行く

「ウチのデモカーにワゴンのインプレッサがあるやろ。これにはオーバーフエンダーを装着してあるんやけど、今回の規制緩和でどうなのか、12月5日に直接、陸軍に聞きに行ってみたんや」というのは、トライアルのおなじみマツキー牧原さん。大阪陸軍に乗り付けたインプレッサはモールドでなくオーバーフエンダー（であることにコタワル）で、足も車高調の快速仕様だ。

以前から関西方面の陸軍局では、独自の基準で最低地上高など設定していた。このため関東でOKの公認車が、関西で車検を通そうとしたら不可だった、なんてトラブルもよくあった話なんだ。今回の規制緩和も全国で見解が違うのでは困るよね。

そこで一番キビシイと言われる関西の現場ではどうなのか？ マツキーさんから話を聞いてみた。

「確かに通達は全部の陸軍に回っているみたいやな。でも12月5日時点では検査官は「具体的にはよく把握していないんです」と言ってたぞ。ただ地上高などは全国统一でハッキリしたような。そのような数字が出ている資料は全部もらってきて、いま見ているところや」

なるほど。それでインプレッサを検査官に見せて何か言っていました？ 「モールドでなくオーバーフエンダーからな。幅2cmまでだったら何もせんでええ」と言われたけど、こ



「片側3cmのオーバーフエンダーだから3ナンバーにしなければアカンのや」と牧原さん。これは片方で3cmずつある。このインプレッサは来週にも3ナンバーにする改造車検を受けるつもりや」

ふ〜ん、それでも様々な検査自体は簡単になったみたいですよな。

「そやな、マフラーにしても触媒だけついでれば、音量103ホン以下なら車検対応だろうが何だろうが構わないんや。ただ最低地上高の9cmはクリアしていることは条件だけだ。そこは気をつけんとアカン」

今後、マフラーはパワー向上をうたう宣伝が多くなりそうすね？

「それはどうやろ。今の時代、みんながパワーを求めていたら今のワゴンの流行はないハズやろうからな。チューニングというのはいわゆる、車高調がオツケーになったり、足まわりについてはどうです？ 「マフラーと足まわりが同じ扱

なった、という感じやな。ただしPL法の製造者責任と、ユーザーの管理責任ってのがあるにしても、今のまんまじゃ取締りの方法ってナイんじゃないの。これで図に乗ってエグイ使い方したらマズイよ。業界より法のほうが数段やわらかくなっちゃった、って状況だから。確かにシャコタンは目に見えて増えるやろや。でもボクが好きなのは単なるシャコ

タンより機能的なベッタコ」大規制緩和により全国陸軍の見解も一致することになった。そしてチューニングにも、みんな飛び込みやすくなったと考えていいのでしょうか？ 「そやな。メーカー/ディーラー系も今までみたいな躊躇はしなくなるし。みんなチューンするときの勇気って要らなくなったって言えるんやないかな。増えるでシャコタン」

## 太いオバフェンもOK？



タイヤ、ホイールについても、ドア横に貼ってある純正サイズ以外のものを装着していても問題なし。車検で純正サイズに戻す必要はなくなった。



この本が出るころには3ナンバーになっている。もったも、このようにスキリと装着されていると3ナンバーにしなくてもいいんじゃないかと思うけど。



インプレッサに装着されているシャコチョー。「単なるシャコタンではなくて、自分がやるのは機能的なベッタコなの」ということ。



というわけで、マツキーさんありがとうございました。●取材協力/トライアル ☎0729-65-6823

REV SP 96.2

トライアル180SX  
A CLOSE+TRY FORCE ZELDA



張り詰めた日本刀のようなスポークの緊張感と、美しさを兼ね備えたデザインで、吹き荒れた3本スポーク旋風の中でも、際立った人気を得た2ピースリバーズ、トライフォースゼルダに、4穴モデルが新たにラインアップした。当初からシルビア、180をターゲット車種としてデビューしただけに、180にはハマり過ぎるほどのマッチン

グだ。派手なデザインながら、おとなし目のエアロカーでも違和感がないあたりが、このデザインの完成度の高さをだ。

写真のフロントバンパースポイラーはトライアルオリジナルの「Aクロス」。大型インタークーラー装着を見越した大きなインタークーラーが、180のイメージを大きく変え、トライフォースゼルダとの相性を高めてい

る。Aクロスフロントバンパースポイラーは黒ゲルコート仕上げで定価4万8000円 ●トライアル☎0722-54-9777

張りのあるスポークと深いリム  
軽快さと、力強さの融合



全体のデザインを壊さずしかも 17インチ4穴バージョンも4色が用意される 迫力あるデザインのAクロス 7~10JJ-17 価格は5万3000~5万9000円

モータートレンドレガシワゴン

SCHEEL MAN+MIRANO TOURING F15

独特のリバーズラウンドリムが  
生むネオヨーロピアンイメージ

モータートレンドのTSSニューレガシイは、個性的なライトカバーとフロントグリル、そしてボンネットスポイラーを装着して、スタンダードのイメージから大幅にレーシーに変貌している どちらかという

と、アクの強い、アグレッシブなマスクだが、これに組み合わせられるミラノツーリングF-15は、正統派ヨーロピアンといえる端正なフィンタイプ、独特な形状リバーズラウンドリムで、17インチとしては最大級のディスク面を実現している このミラノツーリングF-15のシックな印象が、モータートレンドレガシイの個性を、ヨーロピアンイメージに作り替えている。●ミラノコーポレーション☎03-3958-7724



リアも迫力 ●モータートレンドレガシイ 927744



サイズは7、16と7、17でオフセット38、50の3種 定価3万8000~4万3000円

イメージを引き立てるのも  
変えるのもホイールのカ

ホイール&エアロ  
新世代コーティング

大径ホイールの迫力と、そのフィニッシュの精緻な美しさ 相反する造形の要素は、エアロデザインと噛合い 独創のイメージがそのとき作られるのだ

Style  
Book